

11/7(日)

「ほおずきアート教室」と「遠野の文化を活かしたまちづくり講演会」開催

菊池市の姉妹都市である宮崎県西米良村と友好都市である岩手県遠野市から講師を招き、ほおずきアート教室と講演会を菊池温泉笹乃家で開催しました。菊池都市間交流の会（米村達郎会長）が主催したもので、午前中、西米良村の特産物ほおずきを使った灯りを作成しました。参加者たちは、西米良村の講師の丁寧な指導で、1時間程度で趣あるほおずきアートを完成させていました。



遠野遺産や小学生による語り部も紹介されました



ほおずきアート作り（右は講師の黒木敬さん）

午後からは、遠野市役所の文化政策部長荒田昌典さんの講演があり、柳田国男と話者である遠野出身の佐々木喜善との偶然の出会いから「遠野物語」が生まれたこと、また「遠野物語」の書物に込められている柳田国男の「古き良き文化」を大事にしていることの“想い”を紹介されました。

休憩時間には、菊池都市間交流の会の会員たちが手作りした郷土料理「とじこ豆」も振舞われ、笑顔あふれるひとときとなりました。

11/13(土)、14(日)

第7回菊池韓国映画祭 ～もっと知ろう。Asia。～

「もっと知ろう。Asia。」をテーマに、第7回菊池韓国映画祭が菊池市文化会館で開催されました。市民有志でつくる菊池韓国映画祭実行委員会（中原源士郎委員長）が主催したもので、1日目はプレ映画祭としてドキュメンタリー映画「ウォーター」、募集したリクエストの中から「蒲田行進曲」「ニューシネマパラダイス」を上映しました。2日目は韓国映画3作品のほか、「外国に友達をつくろう」という演題でフリーライター津留今朝寿さんの講演会が開催されました。



実行委員力作のパネル展示に見入る観客



中原源士郎委員長のあいさつ

会場内では、菊池女子高校茶道部によるお茶席披露、韓国の物産販売、日韓交流の歴史に関するパネル展示、協賛団体のブース展示と盛りだくさんの内容で雰囲気を盛り上げました。オープニングセレモニーでは、駐福岡大韓民国総領事館の金基大（キム・ギデ）領事が「菊池溪谷にも去年行きましたが素敵なおところですね」とあいさつ。「牛の鈴音」では、観客から「現実をありのままに映していて共感しました。心温まるいい映画でした」との声も聞かれました。

9/30(木)～10/3(日)、10/5(火)～10/8(金)

韓国の友好都市へ市民交流団が訪問

菊池市と友好都市関係にある韓国忠清北道清原郡および全羅北道金堤市で開催されている2つの祭りに、菊池市民交流団（菊池雲上太鼓保存会）が招待されました。

最初に訪れた清原郡の「清原生命の祭り」は、韓国でも有数の祭りで、10日間で約30万人の見物客が訪れました。まず清原郡庁を表敬訪問した交流団員たちは、キム・ジンヒョン副郡守から温かい出迎えを受けました。その後、祭りの会場でイ・ジョンユン郡守と会い、岩永悦郎団長が「韓国でも有数の祭りである生命の祭りに招待いただき光栄です」とあいさつすると、イ郡守は「祭りに参加いただくことをうれしく思います。菊池市と清原郡の中学生のホームステイ交流はぜひ今後も継続させてほしいです」と話されました。祭りでは、特設ステージで菊池雲上太鼓演奏を披露しました。迫力のある演奏と太鼓の力強い音色に、観客の皆さんも圧倒されたようで、惜しめない拍手が送られました。



清原生命の祭りで菊池雲上太鼓を演奏しました（上）
演奏後、清原郡守たちからお礼の花束をいただきました（下）

その後、交流団はもう一つの友好都市である金堤市を訪問しました。同市では、イ・ゴンシク市長を表敬訪問し、歓迎の言葉をいただきました。訪問の様子は、翌日の地元新聞にも掲載されました。また、同市の「地平線祭り」に参加し、太鼓を披露しました。大勢の観客で賑わう会場では、雲上太鼓の音色が響き、観客からは大きな拍手が起こりました。この地平線祭りは5日間で約140万人が来場し、韓国最大級の祭りと評価されています。



合併前の旧泗水町時代に金堤市と締結した記念碑の前

10/24(日)、10/30(土)

東京でふるさと交流会開催

首都圏七城会と関東旭志会が東京で開催され、郷土出身者をはじめ、菊池市にゆかりのある首都圏在住者が集まりました。会場はふるさとへの思い出話や最近のふるさとニュースなどで大変盛り上がり、時間が経つことを忘れるくらい楽しい雰囲気でした。



関東旭志会



首都圏七城会

七城会では市の職員が持参したコスモスやすずき、ひまわりに感謝し、旭志会では市が特別に用意した菊池市産のアイスクリームに舌鼓を打ちました。会員の人たちは、ふるさとへの熱い思いや、育てていただいたふるさとへの感謝の意を込めて、ふるさと納税に協力したいと積極的に申し出ていました。